

農福連携産直品など返礼品にCF挑戦 鶴岡

- … 障害者支援施設「オフィスひの
- … で」を運営するNPO法人鶴岡福祉
- … 村（齋藤登子理事長）と鶴岡市が
- … グループホーム開設資金調達のた
- … め、クラウドファンディング（C
- … F）に挑戦する。今年6月開所に向
- … け、4月5日から5月28日まで目標
- … 240万円を募る。「農福連携」で
- … 施設利用者が農家に出向いて収穫を
- … 手伝った、だだちゃ豆などの産直品
- … 詰め合わせなどを返礼品にする。

グループホーム開所へ「オフィスひので」



クラウドファンディングに挑戦する障害者支援施設「オフィスひので」。職業訓練として施設利用者が農家で収穫を手伝った産直品を返礼品にする

同法人は2013年設立、翌年にひのでを開所。就労継続支援B型事業を開始以降、生活介護事業、共生型地域密着型通所介護事業と展開。現在、鶴岡市と三川町から約30人の利用者が登録。障害を持つ人が協力農家に出向き、農作業を共に行うことで農業と福祉の連携（農福連携）を図る職業訓練を進めている。

「障害者専用の入居施設が足りない。グループホーム利用希望者の要望に応えられず困っている」。地域の相談支援専門員から数多くの情報が寄せられた。連携する養護学校からは路線バス本数の少ない地域に暮らす生徒が卒業後、就労支援施設に通所するための入居施設探しに苦労しているとの相談もあった。ひので利用者の中にもアパートなどで一人暮らしをする人がいるが金銭や健康管理などに問題を抱えるケースも多い。高齢化社会が進む中、ひのでは「親無きあと」を見据え、障害のある人が地

域社会で生活を送るために専門員による金銭管理やパランスの良い食事の提供が可能なグループホームの需要を重要視している。

現在の施設に隣接する形で少人数規模のグループホームの建設が始まっている。約360万円の消費設備費用が掛かるため、CFで集めた資金を充てたい考え。寄付は3000円からで、金額に応じて返礼品の内容が異なる。だだちゃ豆などの産直品には料理レシピが付き、ほかにも赤川河川敷に近い同施設から入居者と共に赤川花火大会を観賞する会への招待券なども用意する。インターネット上で寄付金を募るCFのサイト「Ready for（レディーフォー）」で寄付でき、サイトにはスマートフォンなどでQRコードを読み込んでアクセスする。日時は4月5日午後1時～5月28日午後11時まで。問い合わせなどは、オフィスひので 〓電0235（25）2943〓へ。

荘内日報（令和3年4月1日）に載りました